

2012.10 / No.134

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

Topics

大学院学位記授与式を挙行

【特集①】

世界最高性能 気象用フェーズドアレイレーダの開発
～ゲリラ豪雨や竜巻の詳細な3次元構造をわずか10秒で観測可能に～

【特集②】

まちかね保育園が10月1日にオープン

Contents



03 Topics

大学院学位記授与式を挙行了しました

06 特集①

世界最高性能 気象用フェーズドアレイレーダの開発

～ゲリラ豪雨や竜巻の詳細な3次元構造をわずか10秒で観測可能に～

12 役員室だより

16 特集②

まちなね保育園が10月1日にオープンしました！

20 阪大百景

21 職員インタビュー

22 阪大の組織 AtoZ

24 表彰／人事／おくやみ

26 Information

裏表紙 阪大NOWリニューアルについて



表紙写真：大阪大学が誇るスーパーコンピュータSX-9



神戸にあるスーパーコンピュータ「京(けい)」が話題になっていますが、大阪大学サイバーメディアセンターにもスパコンがあります。NEC製SX-9(写真左)で、ベクトル型で使いやすいのが特徴です。また、今年10月にスカラー型クラスタ(写真右)が、新たに導入されました。こちらは、教育用コンピュータの端末と共用されているとはいえ、575台、最大ピーク性能は66.2TFLOPSと立派なスパコン並みです。一度、使ってみませんか。
(サイバーメディアセンター)



Topics

大学院学位記授与式を 挙行了しました

9月25日(火)にコンベンションセンターMOホールにおいて、大学院学位記授与式が行われました。

授与者は209名(修士64名、課程博士123名及び論文博士22名)、修士及び博士の受領代表者20名に平野俊夫総長から学位記が授与されました。

学位記授与式総長式辞〈要旨〉



本日ここに大阪大学の修士／博士学位記授与式に臨まれた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。また、幼少の頃からこれまで、皆さんの勉学を支えてこられましたご家族の方々の長きにわたるご苦労に對しましても、私は心より敬意を表したく存じます。

皆さんは、本日晴れて修士や博士の学位を取得され、一人一人が、それぞれの思いを抱き、これからの進むべき道に夢を膨らませておられることと思います。

私が皆さんに期待することがあります。それは、いかなる分野に進もうとも、常にその分野を究めていただきたい、その分野の信頼されるリーダーになっていただきたい。そのために、この大学で皆さんが培ってきた「物事の本質を見極める」能力を最大限に活かし、誰にも負けない知識と経験、技量を積み、成果をあげるべく日夜励んでいただきたい。ということです。

みなさんが、これまで学んでこられたことは、学問や科学のほんの一端に過ぎません。言い換えれば、まだ入口に差し掛かったところなのです。これからの長い道のりを、切磋琢磨し、新しいことに向かって常に挑戦していただきたいと思います。

社会が皆さんに求めているところは、大阪大学で

養われた知的創造活動としての基礎研究や応用研究の更なる推進とともに、それを社会にわかりやすく還元することです。そのときに、初めて、信頼されるリーダーになるのです。このようなことは本学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成しうることです。皆さんは、伝統ある大阪大学で学んだ者として、大いなる誇りを持ち、皆さんの責務を立派に果たしていただきたいと思います。

世界で初めて5大陸最高峰登頂を達成し、北米マッキンリー単独登山中に遭難死した冒険家の植村直己は、あるとき子供達に次のように語りかけました。

「君たち、夢を忘れないように。夢を抱き続ければ、いつか必ず夢を叶えることができる。」そして、あるときには彼はこうつぶやきます。「あきらめないこと。どんな事態に直面してもあきらめないこと。結局、私のしたことは、それだけのことだったのかもしれない。」

誰しも子供の時は、夢を持ちます。理想を心に抱きます。しかし、夢や理想は現実とあまりにもかけ離れており、それを容易には手に入れることができません。永遠に不可能とすら思えます。だからこそ夢であり、

※全文は大阪大学公式ウェブページに掲載しています。



理想であるのです。人々は成長するにつけて、多くの厳しい現実を経験し、夢と現実の乖離の大きさを実感するに従い、一つ一つ夢を失っていきます。その過程で子供のもつ純粋さ、目の輝きも失っていきます。そして気がつけば当たり前の大人になってしまっています。

これから皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り開く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、あなたが幼いころ、希望とともに抱いた“夢”をいつまでも失わないでいただきたい。一瞬一瞬を大事にして、大いなる夢を持って輝ける未来に挑戦していただきたいと思います。

皆さんにあり、私に無いもの、それは未来という無限の可能性です。

私は昨年総長に就任して以来、「物事の本質を究める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」と力説して参りました。本年5月には、その根本理念と総長在職期間中のアクションプランを『大阪大学未来戦略(2012 - 2015)—22世紀に輝く—』として学内外に公表しました(www.osaka-u.ac.jp)。22世紀においても、大阪大学が世界屈指の研究型総合大学として輝き続ける基盤を、大阪大学の構成員全員の英知と力を合わせて構築するために、8箇条の基本方針を定めました。

22世紀の大阪大学には、各国から若者が集まり、そして世界中で大阪大学のDNAを受け継ぐ仲間が

活躍しています。その時、大阪大学は物事の本質を見極める研究や教育の世界拠点として輝いています。皆さんは、このような大阪大学の卒業生として本日、世界に羽ばたかれるのです。

大阪大学は、これからもここに在ります。皆さんが世界に羽ばたいても、いつでも羽を休めることができる場所として、ここに在り続けます。あなた方の活躍が私たちの存在証明にもなるのです。

そして、あなた方の母校となるこの大阪大学を、どうか末永く見守ってください。わずかな力、わずかな眼差しでも構いません。皆さんの後に続く後輩のために、大阪大学未来基金事業にもご協力ください。卒業生の皆さんの支援が、これからの世界を担う若者に生きる活力を与えます。創立以来、数えきれない先輩方の愛情が、あなた方を育ててくださったようにです。

どうぞ、母校で過ごした日々を誇りに、未来の大阪大学に対する温かい愛とともに、一步一步を踏みしめて前に進んでください。

最後になりましたが、皆さんお一人お一人がこれからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

平成24年9月25日

大阪大学総長

平野俊夫

特集①

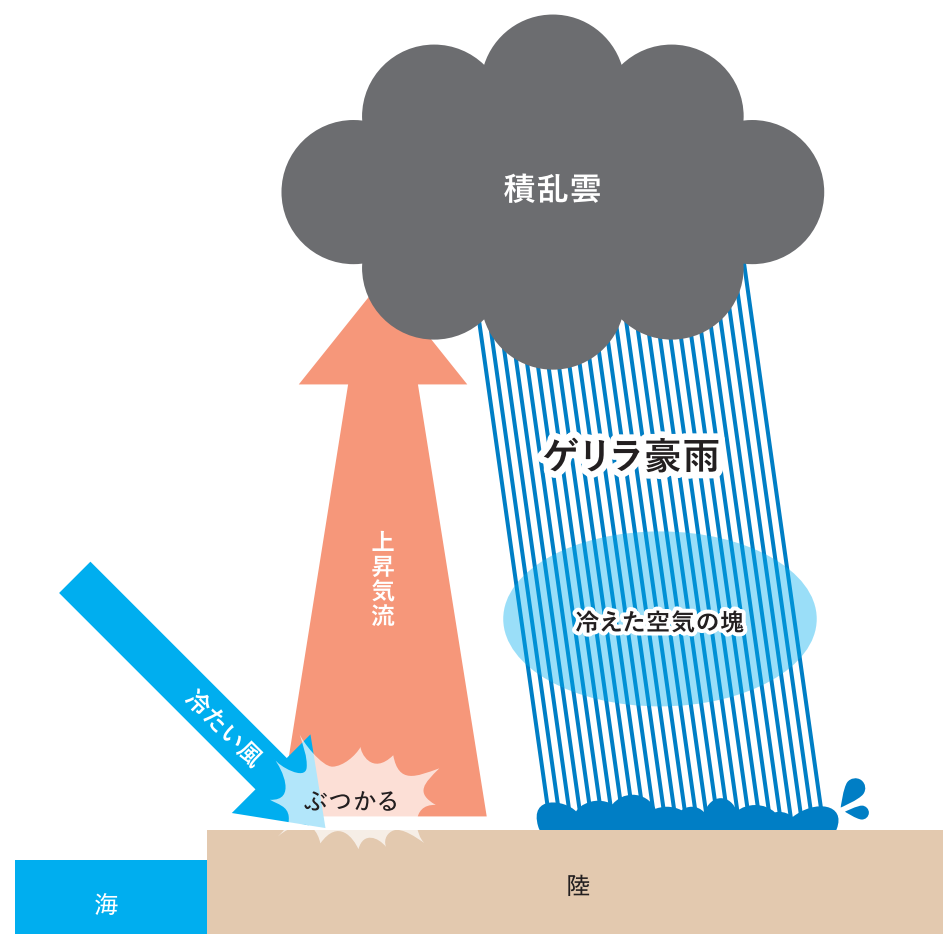
—— 阪大の旬な取り組みをお届けします ——

本年5月のつくば市における竜巻被害や
毎年繰り返されるゲリラ豪雨被害など、
近年の社会の高度化に伴って、
こうした大気現象による被害は増加傾向にあります。
工学研究科では、ゲリラ豪雨や竜巻などを
最短10秒で立体的に観測することが可能な
Xバンドフェーズドアレイドップラー気象レーダの開発に成功しました。
5月に吹田キャンパス電気系建屋の屋上に完成し、
6月には試験観測を開始しています。
このレーダでは、電子走査方式を用いることによって、
従来に比して観測に要する時間が飛躍的に向上し、
世界最高の性能を実現しております。
本特集では、このレーダ開発の概要や観測結果を展望し、
今後の取り組みについて紹介したいと思います。

世界最高性能 気象用フェーズドアレイ レーダの開発

～ゲリラ豪雨や竜巻の詳細な3次元構造 をわずか10秒で観測可能に～

----- ゲリラ豪雨の発生メカニズム -----

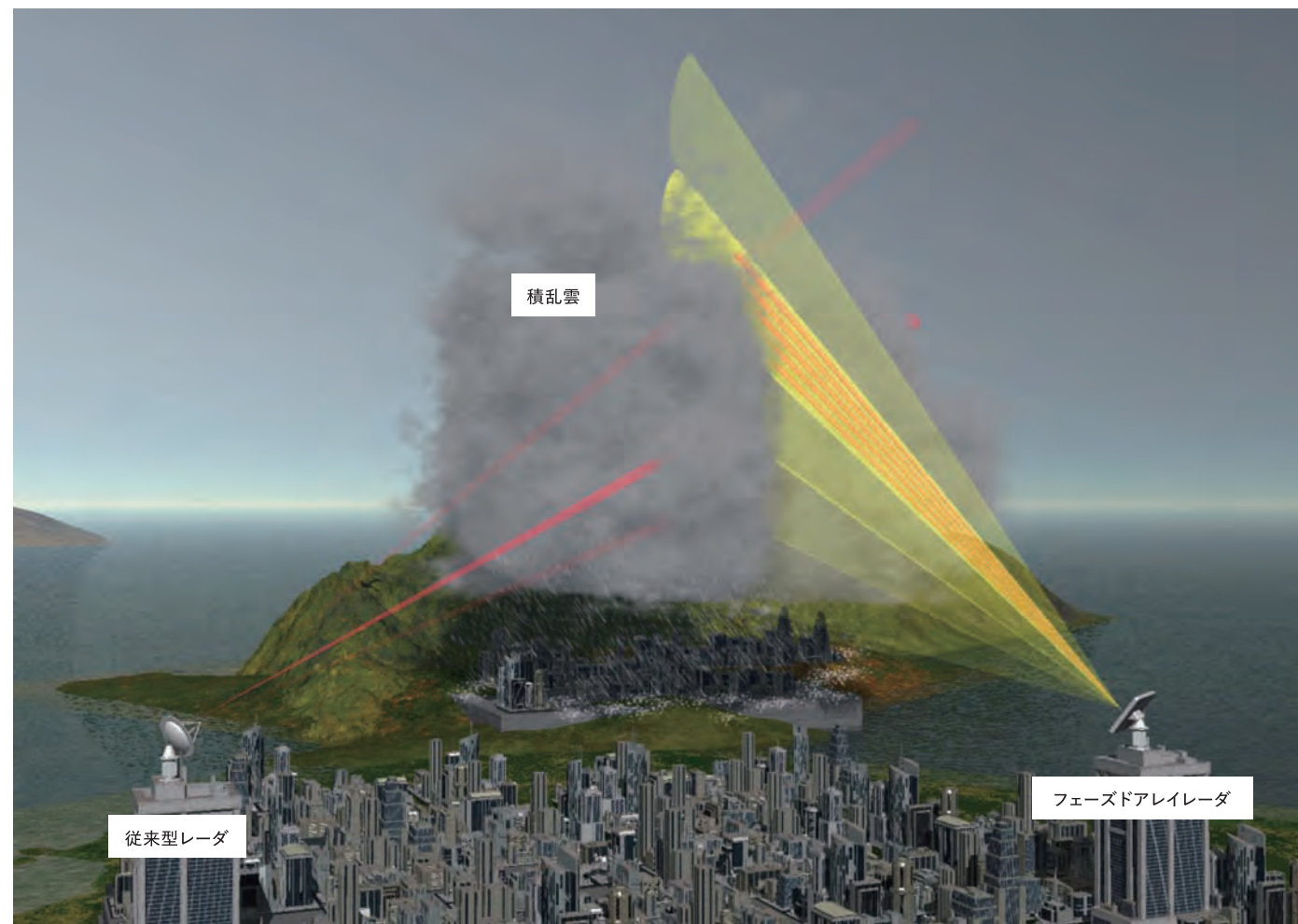


まず、海からの冷たい風が陸の暖気とぶつかることで、上昇気流が発生。すると急速に積乱雲が発生し、局所的に激しい雨が降る現象「ゲリラ豪雨」につながる。

ゲリラ豪雨や竜巻の被害を軽減するにはどうしたら良いのか？

都賀川水難事故として知られる、平成20年7月28日に兵庫県神戸市灘区の都賀川で発生した悲劇的な水難事故をご記憶でしょうか？この事故では、神戸市に突発的、局所的な集中豪雨が発生し、水遊びなどで都賀川や河川敷にいた16人が急激な水位上昇により流され、小学生2人、保育園児1人を含む5人が死亡しました。本年5月6日に茨城県つくば市で発生した竜巻事故も記憶に新しいと思います。近年、ゲリラ豪雨として知られる、このような突発的かつ局所的に甚大な被害をもたらす豪雨あるいは竜巻のような大気現象が増加傾向にあります。これは、急速な都市化や地球温暖化の影響と言われていますが、本当のところはわかりません。では、このようなゲリラ豪雨や竜巻の被害を軽減するには、どうしたら良いのでしょうか？

こうした現象を計測する最も有効な手段は、電磁波を用いたリモートセンシング技術であり、レーダ技術として知られています。この手段の利点は、何十あるいは何百kmという広範囲な領域に分布している降雨の構造を瞬時に把握できるところにあります。このため、国土交通省や気象庁等は、日本全土を覆うようにレーダ観測網を整備し、我々もWeb等で降雨の分布状況を知ることができます。このような用途に用いられる現在のレーダは、パラボラタイプのアンテナが用いられ、ペンシルビームと呼ばれる1度前後の細いビーム幅内の領域を、方位角方向に360度回転しながら、仰角を徐々に上げて観測していく機械的な走査方法が用いられています。しかし、この方法では、地上付近の走査のみでは1分から5分程度、3次元立体観測には、5分から10分以上必要となっていました。これに対して、



従来型レーダ（左側レーダ）と開発したフェーズドアレイレーダ（右側）の観測イメージの比較。従来型レーダでは、細いビームによる数仰角での観測によって5分以上の時間を要していたのに対し、フェーズドアレイレーダでは、100仰角による隙間のない密な仰角観測が、10秒から30秒で可能となった。

前述の局地的豪雨をもたらす積乱雲は、10分程度で急速に発達し、竜巻もわずか数分で発生し移動するため、これまでのレーダ方式では、こうした現象をスナップショット的に捉えることはできても、その発生から発達そして消滅までを逐次、観測することは不可能でした。これが、これらの大気現象の生成メカニズムの解明、予兆現象の発掘、迅速な警報、予知を阻む大きな要因でした。

このような状況に対して、我々大阪大学と株式会社東芝、独立行政法人情報通信研究機構のグループは、フェーズドアレイ方式という機械的なアンテナ走査ではなく、電子的・ソフトウェア的な走査方法を用いることによって、観測時間を大幅に短縮し、10秒から30秒という短時間で詳細に、降雨の3次元立体を可能とする、Xバンドフェーズドアレイドップラーレーダを開発することに成功しました。

今回開発を行ったレーダは、128本のアンテナ素子をアレイ状に配列し、その内24素子を用いて、10度前後の比較的広い送信ビームを、仰角方向に地表面付近の0度から天頂方向の90度近くまで、10回程度電子的に切り替えて送信します。さらに、受信信号を128素子全て受信後、デジタル変換処理を行い、ソフトウェア上で合成処理を行って、約1度の受信ビーム幅を得ます。そして、方位角方向には機械的に回転させることで、半径約15kmから60km、高度15kmまでの範囲における隙間のない詳細な3次元降水分布を、10秒から30秒で観測することが可能となりました。



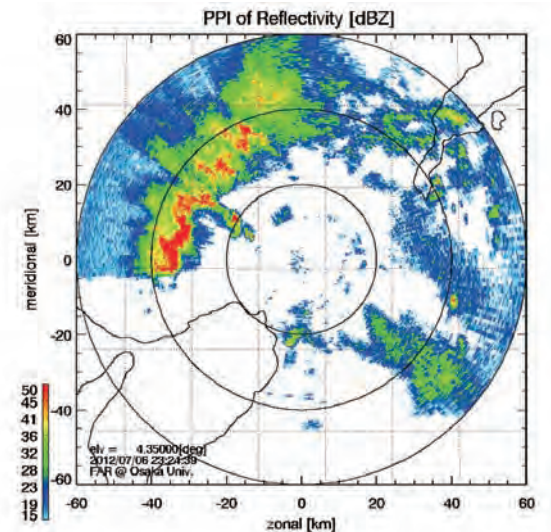
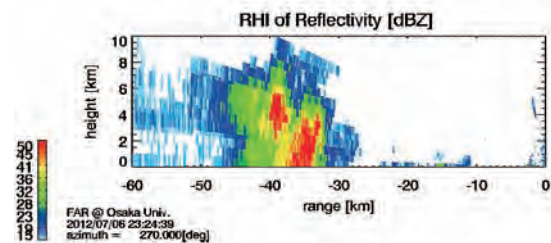
下の白いレドーム内に格納されたフェーズドアレイアンテナ



アンテナ背面に配線されている128個の受信装置およびデジタル変換装置。最新の情報通信技術を用いて、合成処理は全て、アンテナ背面で行われている。



完成したフェーズドアレイレーダ



設置されたフェーズドアレイレーダによるゲリラ豪雨の観測データの例。
右が平面図であり、図中の赤い線に沿った鉛直断面図が左の図。
高く発達した積乱雲の中に非常に強い降雨域が分布している様子が可視化されている。
この降雨域がどのように変化しながら、地表面にゲリラ豪雨をもたらすのか、
開発したフェーズドアレイレーダでは、30秒毎に連続したイメージで観測された。
赤い色ほど強い降雨量を示している。

5月に吹田キャンパスの電気系E3棟屋上に設置を行い、6月頃より試験観測を開始しました。観測の一例を図に示していますが、上空に形成された強い降雨域の分布を良く表しています。ビデオを紹介出来ないのが残念ですが、これが変化しながら、地表面に達する様子がアニメーション等によってよく再現されています。今後、局地的大雨や集中豪雨などの現象を対象として、性能評価試験を兼ねた観測を行います。本レーダにより得られる詳細な3次元観測データは、短時間に大雨をもたらす積乱雲のメカニズムを明らかにしていくことと思います。これは、基礎科学的に大きなブレイクスルー、発見が、本レーダを用いてなされることを意味します。このことは、気象予測の高精度化、また局所的・突発的な気象災害の前兆現象の検出や短時間予報(ナウキャスト)情報としても期待されます。

8月31日(金)に報道機関向けの見学会を行いました。当日は、NHKをはじめ各社からテレビカメラが持ち込まれ、ほぼ主要な新聞社すべてから、記者の参加を得ることが出来ました。見学会の最中に、レーダを撮影するためにヘリコプターが飛んできて、上空を旋回したのは驚きましたが、それだけインパクトのある研究成果だったのだろうと

思います。NHKの「おはよう日本」をはじめとして、数多くのニュースで報道され、翌日の読売新聞では第一面に大きく取り上げて頂きました。この場をお借りして、取材頂きました各社には感謝申し上げます。

情報通信技術は、情報化社会と騒がれて以来、ネット環境が整備され、携帯電話が一般に普及するなど成熟した感もありますが、実はこのような環境応用、自然災害の低減にむけた技術応用は、余り進んでおらず、今後大きく伸びていく余地が多分に残されていると思います。豪雨や竜巻構造の解明など基礎科学的な側面も含んでおり、大学における研究分野としても魅力的です。最後になりますが、この機会を与えていただきました各位に感謝致します。

牛尾 知雄(うしお ともお)

平成5年大阪大学工学部電気工学科卒業。平成10年同工学研究科博士課程修了。博士(工学)。同年アメリカ航空宇宙局(NASA)/ Marshall Space Flight Center/ National Space Science and Technology Center 研究員。平成12年大阪府立大学大学院工学研究科助手。平成18年大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻准教授。

役員室 だより

平成25年度計画の策定

第2期の4年目となる平成25年度計画の策定については、企画評価担当者が中心となり、各部局、各担当理事と調整しながら取りまとめることとしています。

策定スケジュールは次のとおりです。

【策定スケジュール（予定）】

平成24年10月～12月

各部局で部局年度計画を作成

平成24年11月～平成25年1月

部局年度計画を踏まえ各担当理事が大学年度計画（素案）を作成

平成25年1月

企画評価担当で大学年度計画（原案）を作成

平成25年2月

各担当理事、各部局あてに意見照会し、提出された意見を踏まえ企画評価担当で大学年度計画（案）を作成

平成25年3月

関係会議に附議し、大学年度計画を策定

平成25年3月末

文部科学省へ提出

大阪大学アーカイブズの設置

10月1日に、大阪大学アーカイブズを箕面キャンパスに設置しました。

アーカイブズは、法人文書のうち歴史的価値を有する文書および本学の歴史に関する資料を適切に管理することを目的として設置され、法人文書資料部門と大学史資料部門の二つの部門で構成されます。阿部武司室長（経済学研究科教授）のもと、専任教員の菅真城准教授のほか、12名の兼任教員がアーカイブズのスタッフとして、箕面キャンパス管理棟で活動します。今後は、目録の作成や書庫への排架など一般利用に供する準備を進め、本格的なアーカイブズの活動を開始する予定です。

大阪大学が「22世紀に輝く」ためには、「地域に生き世界に伸びる」大学としてのあゆみを示す資料（法人文書および歴史的資料）を適切に保存し、それを活用して「未来戦略」を立てなければなりません。アーカイブズは、これらの資料を本学のみならず社会一般に公開するために、基盤的役割を果たしていきます。



中之島センター 活性化のためのプラン

中之島センター活用計画策定ワーキングにおいて策定した「活性化のためのプラン」を9月の部局長会議で報告しました。中之島センターを「第4のキャンパス」として有効活用を図るとともに、多くの教職員、学生及び市民で賑わい、スペースの利用率を向上させることを目指すことにするものです。

1～3年程度の短期を「トライアル期間」と位置づけ、センターの利用促進につながるインセンティブを与えるために利用に係る規制緩和や1年間の期限付きで「特別割引制度」の導入などを図ることとしております。これは、大阪大学関係者が、講義室・会議室・ホールを使用した場合に、使用料の全額を免除する制度です。現在、適用の範囲、申し込み方法などの具体策を検討中です。

さらに、大阪大学の教育研究、社会貢献に資する組織によるプロジェクト的利用の常時利用についても「特別割引制度」を適用し、年間貸付料の優遇措置を検討します。ただし、3年後にはその利用状況や稼働状況を検証し、貸付制度を再検討する予定です。

詳細については、中之島センター活性化ワーキングにおいて検討の後、お知らせいたします。



阪大未来パレット

— 阪大の未来を理事と話してみませんか —

阪大未来パレットは、大阪大学内の異なる役割を担う様々な人達が集まり、コミュニケーションをとることを目的に開催しています。今回(8月下旬から全8回開催)は、「もし、あなたが大阪大学の経営者だったら」というテーマで、年齢、職種も様々な20部局56名から出されたバリエーション豊かなアイデアをもとに、笑いも起こる和やかな雰囲気が進められました。

また、この機会を利用して、懇談とは別に、各理事から「大阪大学未来戦略(2012-2015) —22世紀に輝く—」に込めた熱い思いも語っていただきました。

この企画は、下のやりとりのように、リラックスした雰囲気の中で、いろんな人とまじめに楽しく意見を交わしながら、いろいろな気づきが得られる場です。

阪大未来パレットは今後も続いていきますので、まだ参加したことのない方も、一度参加してみませんか?

(総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム(PMT))

Aさん

「(自分が経営者だったら)同じキャンパスで行う银杏祭、まちかね祭を1回にまとめて規模を大きくしたいです。」

「例えば、豊中キャンパスの場合、盛り上がっているのが分かるのは全学教育の方面なので、キャンパス全体でお祭り感を感じられるように理学部付近まで規模を拡げて、地域の方にももっと参加いただけるものになれば良いと考えました。」

下田さん(理事補佐)

「阪大の良さは多様性と一体感だと思うので、色々な人が交流しながら一緒に盛り上げていくのが良いですね。教職員も参加して、大学全体のお祭りにしたいんじゃないかな。」

Bさん

「じゃあ、職員も出店をすれば良いですね。」

Cさん

「規模が大きくなる分、安全面を考慮する必要がありますね。」

下田さん

「そうですね。企業とは異なる、大学だからこそ出来る文化というのがあっていいですね。」

阿部さん(理事)

「なるほど。豊中は、学生目線のアイデアが多いですね。」



大阪大学会館 セミナー室2 (平成24年9月7日開催)

※詳細はマイハンダイに掲載しております。(マイハンダイ > 大学本部事務機構 > プロジェクトマネジメントチーム(PMT) 関係)

他の回の様子

参加してどうでしたか?



免疫学フロンティア研究センター棟5階・Lounge
(平成24年8月24日開催)



基礎工学部2ホール・ホワイエ
(平成24年9月21日開催)

大学をより良くするには、みんなが意識を共有することが大事。そのためのパレットになれば良いですね。

法人化以降、大学は自分で自分を良くしていく必要があって、全ての学生に「大阪大学に入って良かった。」と思ってもらいたいし、大学で働く人には「大阪大学で働けて良かった。」と思ってもらいたい。

これを実現しようと思ったら、教員だけが頑張ってもできないし、職員だけが頑張ってもできない。そこには、共同作業が必要で、各々が自分たちの問題だと認識して取り組むことが重要だと思うんですね。このパレットを、そういうものを作り上げていくための場にしていけたらいいですね。



教育担当理事
東島さん



理学部技術職員
古木さん

参加者がお互いに刺激を受け、与え合う場なので、若い人達にもっと経験してほしいですね。

今回参加しようと思ったのは、自分は技術職員なので、技術職員の視点で考えた意見を学内に発信していかないと、と思ったのがきっかけです。

参加してみると、色んな職種の幅広い年齢層の方がいらっしゃるの、自分ではなかなか思いつかないようなアイデアに触れ、刺激をもらいますし、視野が広がった感じです。

機会があれば、次回も参加したいですね。良い機会なので、若手の技術職員にもっと参加してほしいですね。



財務部事務職員
山崎さん

迷ってるなら「参加してみるといいよ。」と声をかけてあげたいですね。

参加する前は、理事の先生に対して、話づらいイメージがあって緊張していたのですが、理事が「2歳になるお孫さんがマイブーム」と話されたの聞いて、身近に感じられましたし緊張もほぐれました(笑)。

今回のテーマは、普段はあまり考えない壮大なものだったし、自分自身の経験も浅いので、自分の考えてきた意見を話すことに少し気後れしていましたが、理事からも気さくにコメントを返していただけて、楽しく話しやすい雰囲気でした。

もし、参加しようか迷っている後輩がいたら、「参加してみるといいよ。」と声をかけてあげたいですね。

大阪大学 まちかね保育園が 10月1日にオープンしました！



はじめまして。**すくたん**です。
豊中キャンパスに新しくできた
まちかね保育園をご紹介します。

大阪大学保育園キャラクター

すくたん

園児たちの元気な声に刺激され、
大阪大学の緑豊かな土地から生まれた妖精

自然木で作った園舎は
環境にやさしくて、
こどもたちは
木のぬくもりを感じながら
過ごせるよ。

ひよこ組は最年少。
畳の上でハイハイ、
ゴロンゴロン。

部屋の中はすべて木製。
夏は涼しく、
冬は暖かいんだって。

園庭はこどもたちの遊び場。
どろんこ、かけっこ、
今日は何をするのかな。



長い廊下と広いホールは
雨の日の運動場。
みんな滑らないようにね。



国際交流会館C棟

にゅえんおめでとう



小谷 恵美子
園長です。



自然に恵まれたまちなね保育園。
毎日裏門の周りには、
たくさんのどんぐりが落ちていて、
秋の到来を教えてください。
子どもたちの成長・発見・気持ちをしっかり受け止め、
保育に携わるプロ集団として、
保護者の方々、子どもたちを
支えていきたいと思っています。

大阪大学 学内保育園の ウェブページがリニューアル!



保育園についての
詳しい情報は
ウェブページを見てね!

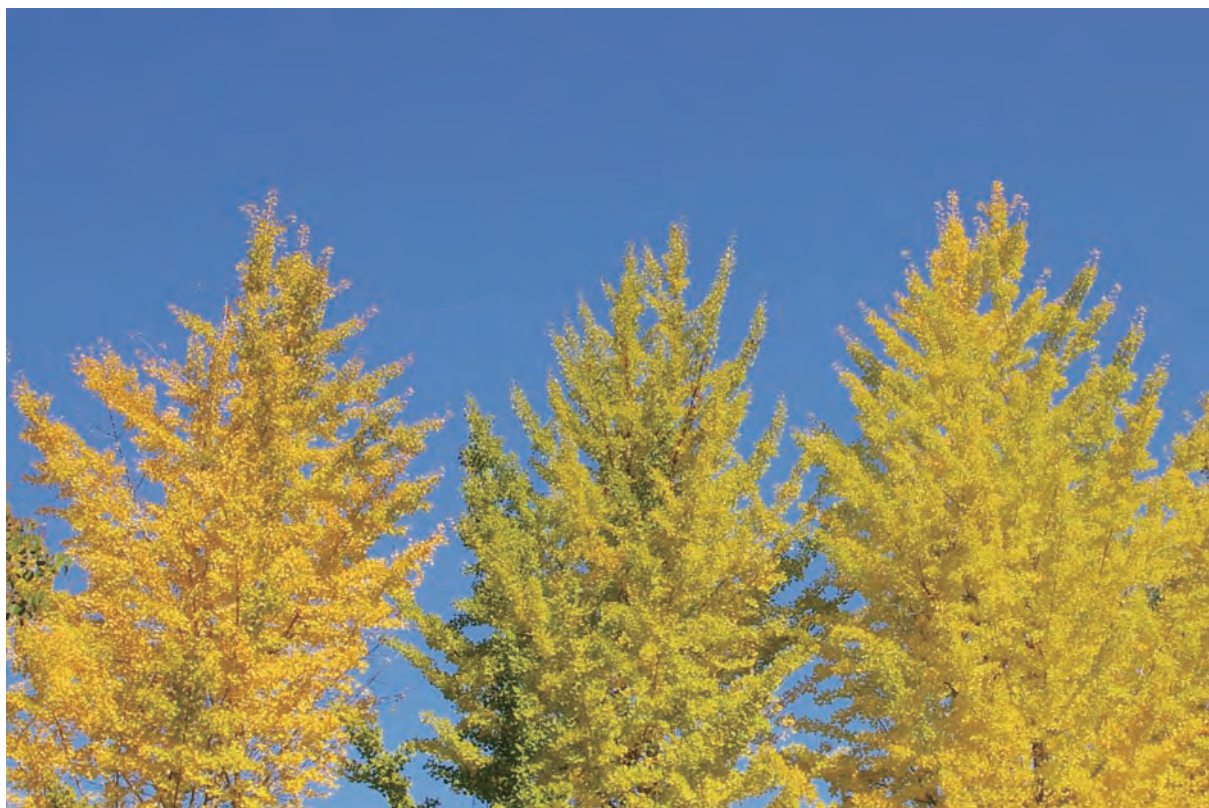


<http://www.hoikuen.osaka-u.ac.jp/>

O+PUSでは
まちなね保育園開所式の様子が
期間限定で配信されています。

すくたんが
お披露目された
シーンもあるよ。
見てねー!





「銀杏と空」
 (吹田キャンパス・レーザーエネルギー学研究センター前／11月中旬頃)

OWL {

 カテゴリ：阪大の自然

 キーワード：紅葉／イチョウ／秋／吹田キャンパス

OWL (Osaka University Web Library) とは…
 大阪大学の学内構成員(学生・教職員)が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンダイ」からログインのうえご利用ください。https://my.osaka-u.ac.jp

職員インタビュー



「仕事も趣味も無理のないペースで」

福本のりえ 医学部附属病院看護部看護師長

幼い頃から着物が好きで、高校の時には着付けを習っていたという福本さん。平日は医学部附属病院で神経科・精神科病棟の看護師長を務めますが、多忙なスケジュールの合間を縫って、数年前から再び教室に通い始めたそうです。着付けのどのようなところに魅力を感じておられるのでしょうか。その魅力や活動について、お話を伺いました。

「もう一度きれいに着たい」 看護部のイベントがきっかけ

「もう一度習いたい」と思うきっかけをくれたのは、ひなまつりのイベントで着付けをしたときでした。これは、看護部の福祉厚生イベントとして毎年やっているもので、世話役の看護師は着物を着てお茶やお菓子を振る舞います。ここ3年ぐらいいは、ベテラン看護師の協力で若い看護師にも着てもらえるようになりました。着物があるとその場の雰囲気が華やかになりますからね。若い看護師から「ぜひ着たいです!」と言ってくれる人がいると嬉しいですね。

その一方で、昔に比べて自分がうまく着こなせていないこともわかり、すごく嫌でした。写真で見た自分の着付けがほんとに下手で…。このとき、自分の中に「もう一度きれいに着たい」という気持ちが強くわいてきたんです。

着物で季節を感じる

もともと着物は身近にあり、小さいころから和服に接する機会が多かったですね。田舎で育ったというもありますが、冠婚葬祭のときも女性は着物



を着ていましたので、とても親しみを持ってきました。

着物は、季節に応じた柄や素材が決まっています、そのときの季節感を感じることができるのは大きな魅力です。例えば、春なら桜の柄を着ますし、同じ単衣(ひとえ)でも6月なら夏に、9月なら秋に向かっていくような柄が使われます。みんながきっちり着こなしているわけではありませんが、そこまで気を遣える人はおしゃれさん。私は特に夏の着物が好きで、「紵(ろ)」や「紗(しゃ)」など透け感のある素材が醸し出す涼しげで凛とした雰囲気が素敵ですね。

仕事も趣味も無理のないペースで

着付けは、趣味の一つとして、日常の仕事の合間の気分転換になっています。最近は忙しくて月2回ぐらいになっていますが、通い始めのころは週1回のペースで通っていました。周りからは、「講師の資格を取って着付けの先生になったら?」といわれたこともあります。現役の間は(講師を)しようと思ったことはないですね。専念するにはもっと勉強が必要で、看護師の仕事もまだ続けたいですし、ましてや二股をかけられるほどの余裕はないです(笑)。目的はあくまでも、「きれいに着物を着る」ことなので、無理のないペースで、今後もずっと続けていきたいですね。仕事でも、時には師長として厳しくすることも重要かもしれませんが、自分も他のスタッフもみな自然体で、自由に仕事ができる雰囲気作りができればいいなと思います。



シーズ探索から治験まで
— シームレスな開発のためのプラットフォーム —

医学部附属病院 未来医療開発部

8月1日、医学部附属病院内に、高度な医療技術の開発を統合的・効率的に支援する部署として「未来医療開発部」が新設されました。

医学部附属病院では、これまで中央診療施設の中で未来医療センターを中心に橋渡し研究を、臨床試験部を中心に治験を支援・管理する体制の整備と実践を行ってきました。未来医療開発部の設置にあたっては、この2つの施設を統合することにより一元的臨床試験支援体制を構築しました。さらには、データセンターにて治験のデータ管理も一括して行うことで、スムーズに治験、臨床へと結びつけられるようにしました。

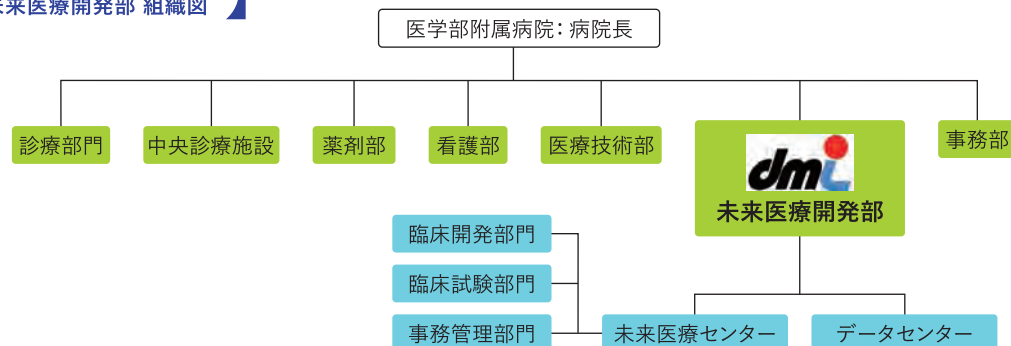
この未来医療開発部の設置により、わが国で急務とされる多くの優れた基礎研究の成果を、確実かつ迅速に医療の場に届ける体制整備が大きく前進したといえます。今後は、シームレスに開発を支援できるプラットフォームを基盤に、シーズから質の高い臨床試験へアカデミア発の新規医療技術の開発に取り組むことが期待されます。

未来医療開発部は、他分野の研究者が「何かに役立つかもしれない」と考えながらも、どのようにすればいいのかが分からなかったシーズを掘り起こし、臨床研究へと橋渡ししていきます。すでに薬学研究科、歯学研究科、工学研究科などの研究者のシーズを臨床へと結びつけてきました。

未来医療開発部では、定期的に、学内のライフサイエンス分野の研究室にアンケートを実施して、シーズの発掘をしています。これまでに、学内だけで約150ものシーズがありました。また、「未来医療開発相談室」を設けて研究者の方々からの相談を受け付けており、医療への応用の可能性を探ります。実用化に向けて支援が決まったプロジェクトは、専門スタッフのサポートの下で臨床試験等を実施し、実用化につなげていきます（右図参照）。

さらに、このように研究者自身の研究を製品化・実用化につなげることで、「臨床応用できる可能性が高まった」と研究者のモチベーションアップになることも期待されます。

【大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 組織図】



【プロジェクト化】

研究開発の戦略／製剤の製造／
臨床試験／資金調達の支援／企業との連携

【ヒトでの安全性・有効性の確認（治験）】



【実用化】



みなさん一人ひとりの研究成果が、
未来の医療につながる可能性を秘めています。
医療に役立てたい、という思いをお持ちの方は、
お気軽に未来医療開発部までご連絡ください。

【未来医療開発相談室】

医学部附属病院未来医療開発部
未来医療センター 臨床開発部門
TEL：06-6879-6551
FAX：06-6879-6549
Email：support@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

【未来医療開発部全般についてのお問い合わせ】

医学部附属病院未来医療開発部
TEL：06-6879-6555
Email：dmi@dmi.med.osaka-u.ac.jp
URL：www.dmi.med.osaka-u.ac.jp

表彰等

経済学研究科	澤井実 教授	平成23年度特別研究員等審査会専門委員の表彰(日本学術振興会)
薬学研究科	水口裕之 教授	第10回産学官連携功労者表彰(厚生労働大臣賞)
工学研究科	武石賢一郎 教授	第10回産学官連携功労者表彰(日本経済団体連合会会長賞)
	加賀昭和 名誉教授	
	近藤明 教授	社団法人環境科学会 論文賞
	井上義雄 助教	
	交河茂晴さん(M2)	第21回環境工学総合シンポジウム 研究奨励賞
	千賀亮典さん(D3)	第32回(2012年春期)応用物理学会 講演奨励賞
基礎工学研究科	中原靖人さん(D3)	Gold2012 The 6th International Conference on Gold Science, Technology and Its Applications ポスター賞
	吉元俊輔さん(D2)	
	黒田嘉宏 助教	生体医工学シンポジウム ベストリサーチアワード
	井村誠孝 准教授	
	大城理 教授	
	永妻忠夫 教授	電子情報通信学会フェロー
	池應敏行さん(M1)	2012 IEEE International Topical Meeting on Microwave Photonics Best Student Paper Award
	重田育照 准教授	分子科学会 奨励賞
情報科学研究科	東谷章弘さん(D2)	日本数学会賞建部賢弘賞奨励賞
核物理研究センター	三木謙二郎 JSPS特別研究員	第18回原子核談話会新人賞
	緒方一介 准教授	日本原子力学会核データ部会 学術賞
全学教育推進機構	今西亜友美 准教授	日本造園学会 ベストペーパー賞
クリエイティブユニット	伊藤雄一 准教授	APCHI 2012 Best Demo/Poster Award

— 第3回大阪大学総長による表彰 —

総務企画部人事課	山本浩二 主任	言語文化研究科・	山田博 専門職員
情報推進部情報企画課	中村太 専門職員	外国語学部箕面総務室	
法学研究科	高田篤 教授	情報科学研究科	西尾章治郎 教授
理学研究科	原田明 教授		清水正宏 准教授
	田中大輔 助教	産業科学研究所	菅沼克昭 教授
理学部	大森博文 技術専門職員		鷲尾隆 教授
	飯島憲一 技術職員		柳田剛 准教授
医学系研究科	村瀬研也 教授		室屋裕佐 特任准教授(常勤)
	松本政雄 准教授		井手拓哉 助教
	松岡孝昭 助教		開発邦宏 助教
医学部附属病院管理課	湊川隆 技術職員		河原吉伸 助教
薬学研究科	水口裕之 教授		佐々木聡 助教
	榎本俊之 教授		筒井真楠 助教
工学研究科	滝根哲哉 教授		長島一樹 特任助教(常勤)
	森勇介 教授		松崎剛 技術職員
	矢野猛 教授	接合科学研究所	水谷正海 技術専門職員
		コミュニケーションデザイン・センター	伊藤京子 助教
工学部	藤谷涉 技術専門員	核物理研究センター	谷畑勇夫 寄附研究部門教授
	吉岡潤子 技術専門職員	レーザーエネルギー学 研究センター	奥浩行 技術職員
基礎工学研究科	辻本良信 教授		橋本和久 技術職員
	君塚肇 准教授		
	内田幸明 助教		
	田原一邦 助教		
	橋本智昭 助教		
	米澤宏一 助教		

人事

— 新教授 —

平成24年10月1日	文学研究科	文化形態論専攻日本文学講座	北原恵
	理学研究科	数学専攻大域数理学講座	小林治
		物理学専攻基礎物理学講座	橋本幸士
		化学専攻学際化学講座	舩橋靖博
	工学研究科	機械工学専攻マイクロ機械科学講座	芝原正彦
		地球総合工学専攻建築・都市デザイン学講座	木多道宏
		地球総合工学専攻社会システム学講座	土井健司
	産学連携本部	総合企画推進部	徳増有治

おくやみ

産業科学研究所	松尾幸人 名誉教授	平成24年8月23日 逝去
言語文化研究科	山本實 名誉教授	平成24年9月14日 逝去
理学研究科	杉本健三 名誉教授	平成24年10月6日 逝去



<http://www.re-bon.jp>
古本募金“RE:本(リボーン)”プロジェクト

みなさまが読み終わった書籍をご寄付いただくことで
阪大生の「未来」のために、奨学金・研究活動などに役立てられます。

RE:本プロジェクトで集まった寄付金額は、例えば下記の取り組みに活用させていただきます。



「学生選書」
図書館の蔵書を学生自身が選ぶプログラム



「課外研究奨励事業」
学生たちが自主的に行う、独創的かつ意欲的な活動への支援

詳しいお申し込み方法は、Re:本プロジェクトの
パンフレット、またはウェブサイトをご覧ください。

お申込みは **WEB** からでもできます。

リボーンプロジェクト

検索

大阪大学基金事務室

tel: 06-6879-8327 / fax: 06-6879-4337
email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

附属図書館でアンケート調査を実施します

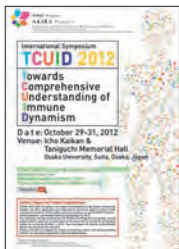
附属図書館では、11月1日から、図書館サービス向上のためのアンケート調査を実施します。欧米の多数の大学図書館等で実績のあるLibQUAL+R(ライブカル)という調査ツールを利用して行うもので、2008、2010年に続き今回が3回目の調査となります。附属図書館では、これまで調査結果を踏まえてアクション・プランを策定しサービスの改善に取り組んできておりますが、学習教育支援活動のさらなる充実を図るため、教員・学生のみなさまの声をお聞かせいただきたく、ご協力をお願いいたします。詳細は、附属図書館のウェブページでお知らせいたします。





大阪大学総合学術博物館 創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり 上方“酒”ばなし ー先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科ー

開催日時：平成24年10月27日(土)～平成25年1月19日(土)
開催場所：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
開催内容：会期中にミュージアム・レクチャー、ワークショップ(試飲あり)、特別企画をそれぞれ開催予定
参加方法：催しごとに申込方法が異なります。詳しくは総合学術博物館ウェブページをご覧ください。
問合せ先：総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
TEL：06-6850-6284
URL：http://www.museum.osaka-u.ac.jp



International Symposium "Towards Comprehensive Understanding of Immune Dynamism (TCUID 2012)" (和訳：2012年度国際シンポジウム「免疫ダイナミズムの統合的理解に向けて」)

開催日時：平成24年10月29日(月)～31日(水)
開催場所：大阪大学融合型生命科学総合研究棟1階 谷口記念講堂(10月29日)
大阪大学 銀杏会館(10月30日～31日)
講演者等：Prof. Dirk H. BUSCHをはじめ海外招聘講演者6名、審良静男(免疫学フロンティア研究センター拠点長)ほか多数
参加方法：TCUID 2012 ホームページから参加登録
参加費無料。但し、レセプション代3,000円(学生は無料)
問合せ先：TCUID 2012 事務局(大型教育研究プロジェクト支援室内)
TEL：06-6879-4786 / FAX：06-6879-4308
Email：tcuid2012-rep@ml.office.osaka-u.ac.jp
URL：http://akira-pj.lserp.osaka-u.ac.jp/TCUID2012/

吹田祭 2012年度講演会

開催日時：平成24年11月1日(木)14:00～16:00
開催場所：大阪大学工学研究科 U2-211 講義室
講演者等：野呂輝久(スタジアム建設募金団体理事、ガンバ大阪副社長)、磯崎芳男(海洋研究開発機構海洋工学センター長)
参加方法：事前申込み不要、聴講無料
問合せ先：工学研究科マテリアル生産科学専攻 寺井智之
TEL：06-6879-7484 / FAX：06-6879-7522
Email：terai@mat.eng.osaka-u.ac.jp

ふたごの集い

開催日時：平成24年11月4日(日)
開催場所：大阪大学中之島センター
講演者等：末原則幸(元大阪府立母子保健総合医療センター副院長)、早川和生(ツインリサーチセンター長)ほか
参加方法：Email、電話またはFAXにてツインリサーチセンター事務局まで申込。参加費無料。
問合せ先：医学系研究科附属ツインリサーチセンター
TEL&FAX：06-6879-2556
Email：info@twin.med.osaka-u.ac.jp
URL：http://www.twin.med.osaka-u.ac.jp/



第53回大阪大学まちかね祭

今回のまちかね祭では、「まちかね、くるかね?」というテーマをかがめました。まちかね祭の「まちかね」と来るかという問いかけの「くるかね?」という2つの言葉が韻を踏んでいます。この明るく気さくな問いかけをテーマにすることにより、まちかね祭に一人でも多くの来場者があるようにとの願いを込めました。
詳しくは、まちかね祭公式ウェブサイト
http://www.machikanesai.com/
ご確認ください。



開催日時：平成24年11月2日(金)～11月4日(日) 各日10:00～19:00
開催場所：豊中キャンパス
問合せ先：大阪大学大学祭中央実行委員会
豊中市待兼山町1番10号 大阪大学学生部学生交流棟気付
TEL/FAX：06-6841-6025
Email：info@machikanesai.com



大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 ー焼け跡から万博前夜までー

開催日時：平成24年11月25日(日)13:30～17:00
開催場所：大阪大学 中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
講演者等：高橋 亨(美術評論家、大阪芸術大学名誉教授)、向井修二(イメージプロデューサー、元具体美術協会会員)、加藤瑞穂(総合学術博物館招へい准教授)、熊田 司(和歌山県立近代美術館館長)、竹内幸絵(大阪市立大学非常勤講師 / サントリーホールディングス)、永田 靖(文学研究科長)、上野正章(文学研究科招へい研究員)
参加方法：事前申込み不要、当日先着順(13:00開場)。聴講無料。定員：150名
問合せ先：総合学術博物館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13
TEL：06-6850-6715 / URL：http://www.museum.osaka-u.ac.jp

大阪大学 グローニンゲン大学合同シンポジウム "Particle&condensed matter physics: New challenges and opportunities"

開催日時：平成24年11月26日(月)～28日(水)
開催場所：大阪大学銀杏会館(28日はSPRING-8 SACLAL見学)
参加方法：ホームページから参加登録 参加費無料
問合せ先：URL：
http://www.osaka-u-groningen.org/ja/events/OU-RUG2012/

平成24年度大阪大学男女共同参画シンポジウム

開催日時：平成24年11月29日(木)15:00～17:00
開催場所：大阪大学コンベンションセンター 会議室2
講演者等：渥美由喜(厚生労働省 政策評価に関する有識者会議委員(東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長))、高橋美恵子(言語文化研究科教授)
参加方法：EmailまたはFAXにてお申込みください。参加費無料
問合せ先：男女共同参画推進オフィス
TEL：06-6879-4405 / FAX：06-6879-4406
Email：geoffice@office.osaka-u.ac.jp



第4回大阪大学の集い

卒業生、教職員OB、現役の学生・教職員等との交流と親睦を深めるため「大阪大学の集い」を東京で開催いたします。内容は、大学の近況報告、卒業生の方の講演、交流会となっております。多数の方のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成24年12月7日(金)18:00～21:00
開催場所：学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)
講演者等：井上ゆかり 日本クラフトフーズ株式会社代表取締役社長(昭和60年経済学部卒)
参加方法：本学公式ウェブページ(イベント情報)をご参照ください。【申込期限：11月9日(金)】
問合せ先：広報・社会学連携オフィス社会学連携課
TEL：06-6444-5186 / FAX：06-6444-2338
Email：dousoukai-r@ml.office.osaka-u.ac.jp



国際シンポジウム「公的部門における法律専門家—その養成と役割の国際比較—」

開催日時：平成24年12月8日(土)10:00～17:00(9:30受付開始)
開催場所：大阪大学基礎工学国際棟 シグマホール
講演者等：effrey Lubbers(アメリカン大学教授)、Jan-Hendrik Dietrich(ドイツ連邦行政大学教授)、宮川成雄(早稲田大学教授)、浦中千佳央(京都産業大学准教授)、高橋明男(法学研究科教授)、佐伯彰洋(同志社大学法学部教授)、佐藤英世(東北学院大学法科大学院教授)、北村和生(立命館大学法科大学院教授)、岡本登(法学研究科教授)
参加方法：Emailにて11月26日(月)までに申込
※①名前(ふりがな)、②所属、③連絡先メールアドレス、④レセプション参加・不参加を明記のこと
※参加費無料。レセプション参加者は、当日会費1,000円をいただきます。
問合せ先：法学研究科法曹養成科研事務局(担当：山田) Email：housou_yousei_2012@law.osaka-u.ac.jp

人間科学部創立40周年記念シンポジウム 東日本大震災から考えるコミュニティ復興の人間科学 ー支え合い・学び合い・利他主義の社会に向けてー(仮題)

開催日時：平成24年12月20日(木)14:00～17:30
開催場所：千里阪急ホテル
講演者等：志水宏吉、渥美公秀(以上、人間科学研究科教授)、稲場圭信(同研究科准教授)、ほか人間科学研究科学生による報告もあり
参加方法：Emailにて人間科学研究科庶務係まで事前に申込。参加費無料。
問合せ先：人間科学研究科庶務係
TEL：06-6879-8003
Email：jinka-syomu@office.osaka-u.ac.jp

ロゴについて

本学は80周年という節目を越えて「未来へ」と飛躍する時を迎えています。その節目に阪大NOWをリニューアルすることとなりロゴデザインも一新しました。かつてのロゴは正方形のフォントをベースとしたやや固い印象のものであり、学内広報誌という側面が非常に強かったと感じます。リニューアル後は皆さんの手にとってもらいやすいよう、柔らかさを出すために曲線でロゴタイプを構成し、未来を志向するイメージを出すためにエッジーなデザインとしました。また、NとWはOを包み込むような形状とし、皆さんの阪大マインドを大事にする姿勢を表しています。

クリエイティブユニット 准教授 伊藤 雄一（いとう ゆういち）



本文レイアウトについて

本学は多種多様な分野の研究者・事務の方などがいらっします。その専門を越えて興味を持ってもらえるよう、静かなページ／楽しいページ／見るページ／読むページなど、伝えたいことがより伝わるようレイアウトしました。NOWを通じて知らなかった大阪大学を知ってもらい、さらに皆さまの活動が、分野や仕事を越えて繋がればと思っています。

クリエイティブユニット 特任研究員 聲山 祐佳（うしやま ゆか）



編集担当より

ウェブが主流のこの時代に、あえて広報誌を発行する意義はあるのか。学内広報誌に求められているものは何か。その視点のもと、より多くの人に読んでいただけるよう、手に取っていただきやすいデザイン、ロゴ、サイズ、記事構成を考え、全面的に企画を一新しました。本学では、8月に公式ウェブページをリニューアルし、ウェブコンテンツによる情報発信を積極的に行っていく体制が整いました。ウェブでは阪大のニュースをタイムリーに掲載し、阪大NOWでは、皆さまにじっくり読んでいただきたい情報を取り上げて記事を作っていきます。今後とも読者の皆さまと双方向で作り上げていきたいと考えていますので、リニューアル後の阪大NOWもどうぞよろしくお願いいたします。

広報・社会学連携オフィス広報課 加賀 涼子（かが りょうこ）



「大阪大学未来基金」へのご寄付のお願い



大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみなさまからのご支援をお願い申し上げます。

【個人の皆さまへ】

ご寄付の方法： ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、ゆうちょ銀行・金融機関からは毎年1回定額を自動引き落としでご利用いただくことができます。（詳しくは、未来基金のホームページ（www.miraikikin.osaka-u.ac.jp）をご覧ください。）

税法上の優遇措置： 所得税控除等を受けることができます。（詳しくは、同ホームページでご確認いただけます。）

お問い合わせ先： 大阪大学 基金事務局

TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337

email: kikin@office.osaka-u.ac.jp



阪大NOW 2012.10／No.134

2012年10月発行

編集：大阪大学広報・社会学連携オフィス

デザイン：大阪大学クリエイティブユニット

発行：大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 TEL:06(6879)7017 FAX:06(6879)7156

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、email: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp までお寄せください。

今後本誌は年4回（1、4、7、10月）の発行となります。次号（No.135）は2013年1月に発行予定です。